

2011年4月12日、たより「轍」1号が発行された。あれから、3年が経過した。たよりの名前は、当時の高校3年生の福井さんがこんな思いを込めて付けた。

「わだちとは、車が通ったあとに残る車輪の跡です。津波ですべてのものが破壊された被災地の情景を目の当たりにしながら、そこに、人々は、新たに『出会いと経験』を通して再び、『人生の足跡』を作っていくのだと思いました。

このたよりは、被災された人にかぎらず、この災害で心痛めている全ての人の被災地に対する取り組みを『人生の足跡』として記していこうとの願いを込めて轍と名付けました」

# 「気持ち」だけでは変えられない!!

初代実行委員長西紋さんが、1号のたよりに書いた言葉です。

「どんなに被災地が良くなるようにと願う気持ちが強くても気持ちだけでは何も変えられません。今が、その「気持ち」を「行動」に移す時です。」と訴えました。その訴えを引き継ぎながら今、4代目の実行委員長を清家未来が、新しい活動を提起しようとしています。新入生のみなさんはもちろんのこと、今まで「何かしたい」と思いながら実行委員会の活動に参加できなかった人も3年という節目に参加をしてみませんか。私は、活動を経験することで、被災地の人から数え切れないほどの勇気をもらっています。

## 海外に発信します

現在、ディーン先生にも協力してもらいながら、私たちの東日本の被災地への応援活動を紹介し、支援の輪を広げられるようにします。具体的な方法は来月の轍で紹介します。英語に関心が高い、または英語に自信がある人、英語が上手になりたい人一緒に新企画に取り組みませんか。



小松さんからは、気仙沼のキャラクターや、世界三大魚場気仙沼で働く漁師たちのカレンダーと共に、地元の高校生達を作ったなまり節ラー油「ぼぼっ うんめい」を届けて下さいました。高校生も地元の復興に頑張っている姿を教えて頂いて有り難うございました。美味しいですね。



気仙沼の小松さんからお手紙が届きました。「気仙沼から母校の東陵高校が甲子園に出場したので行ってきました。試合は負けでしたが頂いたカメラが大活躍したくさん写真を撮ることができました。本当に有り難うございました

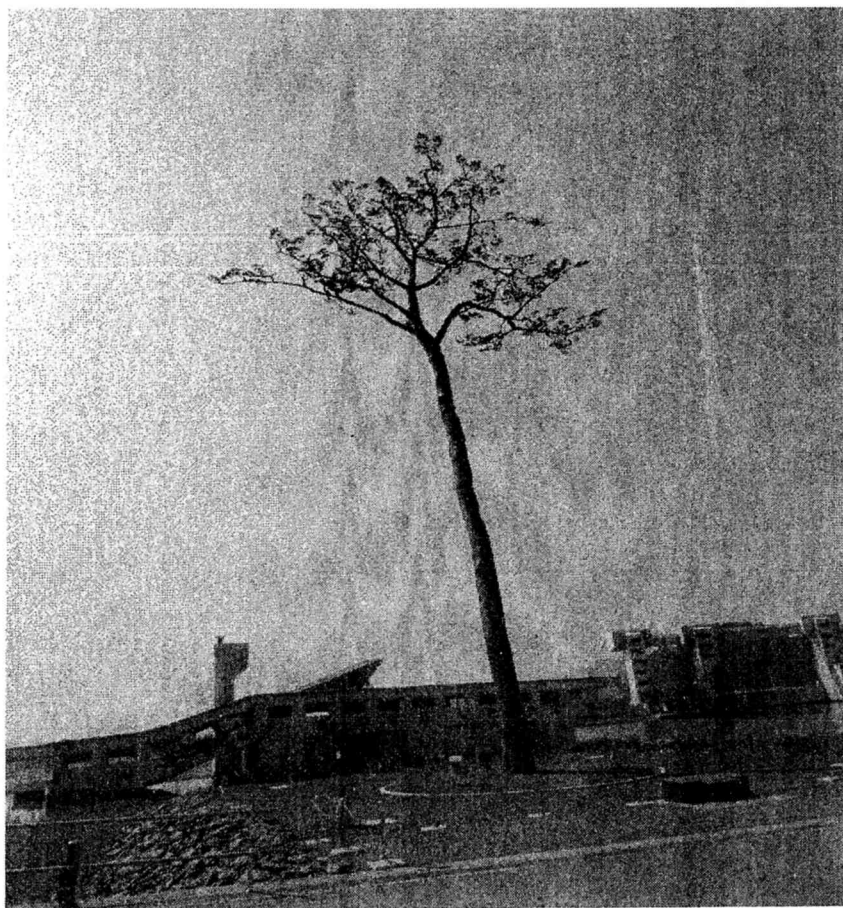
## 甲子園で大活躍

## 海外研修旅行のお土産としても好評！！

現在の高校3年生立命館コースでは、春休みにオーストラリア語学研修に行ってきました。そのホームステイ先のお土産として実行委員会のオリジナルミラー&クロックを持っていきました。オリジナルグッズはとても好評で、私たちの活動にも賛同してくれました。

下の英文は実行委員会の活動を紹介したものです。オリジナルグッズと一緒に渡しました。

Our school has been sending aid goods since the Tohoku earthquake on March 11, 2011. We make original goods and sell them to collect donation money to send aid goods to Tohoku. This year, we bought personalized clock mirrors. This present is for you. We hope you will not forget about Tohoku by keeping it. We really appreciated this opportunity to tell you about it. Thank you.



Single Miracle Pine Tree - a sign of hope amid devastation  
in Rikuzen Takada